

「五葉山の魅力」

五葉山自然倶楽部
創立10周年に寄せて

(14)

古くから人々の生活と結びついている霊峰、五葉山。その秘められた歴史を知り、森に触れ合う「五葉山森林浴まるごと体験」に、我が家の小学生の子ともたちと出かけた。今から十六年前、平成四年九月十二日のことだった。

最初の行事は、上有住集會センターでの森林教室と五葉山火縄銃鉄砲隊の演武。五葉山麓においては、楽しみにしていた「五葉山森林浴まるごと体験」。朝九時から夕方四時までの盛りだくさんのメニューが用意されて

いたが、飽きることはなかった。

森林教室では、全く知らなかった五葉山の果たしてきた歴史を鈴木周二さんが、檜山で作られた火縄が戦においてどんなに大切であり、重要であったかを千田明雄さんが、それぞれ分かりやすく話してくれた。

五葉山森林浴まるごと体験

住田町世田米

山内 米子

五葉山の山々に砲声を鳴り響かせた火縄銃の演武には正直びっくりしていた。火縄銃を手にとってみると思いのほか重く、戦場での鉄砲を担いでよく野山を駆けめぐったものだと感じてしま

う。五葉山麓には気持ちのいい風が吹き抜けている。木立に差し込む日の光がとてもすがすがしかった。森林浴道沿いの「ブナ」「ミズキ」「ヒノキ」などには木の名札が付けられている。休憩施

て挑戦。カッターナイフでの木工に四苦八苦していたが、二つ、三つと作り始めた。

期待の森林浴では参加者を七班に分け、それぞれに森の案内人がつくというものだった。私たちは五班。県宮古地方振興

設である「あすなる山荘」前では焼き肉の集い。我が家の子ともたちはお腹いっぱい食べ、大満足。いよいよ「五葉山森林浴まるごと体験」である。最初は尻込みしていた子どもたちも、かわいいキーホルダー「モックン」や「色鉛筆」があつという間にできあがるのをみ

局で林務の仕事をしているという伊藤正逸さんが先生だ。県内でただ一人の公認森林インストラクターである。

伊藤さんは前日山に入り、本番に向けての入念な準備をしてくれていた。まず、オサムシ。一晩のうちに伊藤さんが用意した獲物にありついたら、

ようだ。手塚治虫の名前は、このオサムシから付けられたと教えてくれた。

平成十一年十一月、五葉山の魅力の再発見をテーマに開催した「五葉山フォーラム99」、平成十三年九月に行った「五葉山フォーラム2000」(もりを知り、森を守り、森に学ぶ)は、改めて五葉山やその山麓の魅力を再認識させてくれた。

黒岩コースや檜山コースから五葉山登山をするたびに、あの豊かな森を身近に、そして自分のこととして感じる契機となった「五葉山森林浴まるごと体験」を思い出す。



上有住小や住田高でも実施されている、五葉山麓での楽しい自然観察会や森林浴

リレー
エッセイ